

学 生 近 況 報 告

ポリクリを終えて

黒 崎 滋 之 (6 年次)

同窓会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。6 年次の黒崎滋之です。

今年は 5 月 21 日に太陽と月、地球が一直線になることで起こる金環日食が、6 月 6 日には金星の太陽面通過がありました。観測された方はいらっしゃるでしょうか。太陽の出ている時間帯での現象のため、観測する時間がなかなかとれなかった方も多いと思いますが、私は少し時間をつくって専用グラスで観測しました。次に日本で観測できる金環日食は 2030 年 6 月 1 日とそれほど遠くない未来ですが、金星の太陽面通過に至っては 2117 年 12 月 11 日と一世紀後のことです。しかも、天体ショーで大騒ぎになっても、このようなショーを作り出す太陽系も宇宙の中では小さな存在にしか過ぎません。そんなことを思いながら観測していると、なんだか目の前に控えている諸々がとてつもなく小さなことのように思えてしまいました。

さて、昨年 4 月に始まり 1 年 2 か月にわたったポリクリも 5 月 25 日下旬をもって終わりを迎え、総合講義、そして選択実習も 6 月 22 日をもって終了しました。5～6 年次のポリクリを振り返ると、病棟業務や外来・手術見学、ミニレクチャー、レポートなど目前のスケジュールや課題に追われることの多かった 1 年 2 か月でしたが、ポリクリ後に総合講義を聴くと、4 年次までの座学ではなかなか理解しにくかった内容も以前に比べて滞りなく頭に入ってくるようになりました。イメージしにくい臨床現場をイメージしやすくする。これがポリクリの効果のひとつなのでしょう。また知識の習得・整理という視点だけでなく、医師という職業のありかた、他職種と医師の関係のありかた、社会での医師のありかたなどについても今まで以上に考えるようになりました。

ポリクリを終えた私たち 6 年次にはこれからマッチング、卒業試験そして最大の山場である医師国家試験が待ちかまえています。9 割が合格するとされている国家試験ですが、合格するだろうという楽観的感情と本当に合格するのだろうかという不安が交錯する日々がこの 4 月から始まっています。しかし国家試験といえども、それはあくまで通過点にしか過

ぎません。そんなことでモヤモヤしていても仕方ありません。努力すれば、なんとかなる。そう信じ、やるべきことをやるしか他に手立てがありません。こんな感情を吐露するようになるとは、やはり国家試験は通過点ではあるけれども小さなことではありません。

「人事を尽くして天命を待つ」高校時代に所属していた部活顧問の座右の銘をもって、挨拶と代えさせていただきます。

Polybusy で Polyexciting な Polyclinic

山 田 拓 (5 年次)

同窓会の皆さま、初めまして。医学科 5 年次の山田拓(やまだたく)と申します。

私たち 5 年次は 4 月より病院実習(ポリクリ)がスタートしました。毎朝早朝に集合してモーニングカンファの出席、病棟回診に同行、その後は外来診察や手術の見学、病棟で患者さんのカルテ記入など物事は目まぐるしく進んでいき、気がつけば日も暮れ始めて科によっては深夜近くまで残ることもあります。さてそのポリクリですが、私たちの代より前半期では 4 月から 10 月中旬まで各科を 1 週間単位で回る新体制になりました。1 週間という短いローテーションの中でも毎日は新たな学びと刺激に満ちています。今まで座学や教科書で学んだような疾患も臨床の場では頻繁に出てくる一方、教科書的な典型症状や治療が必ずしも正しいわけでもなくその都度、病態生理や患者背景など考える必要があり一筋縄でいかない臨床の難しさを感じています。

また患者さんに問診するなど直接患者さんと接する場が多くあり、その度に緊張と不安でいっぱいですが、患者さんが心開いて自身の病状や悩みを事細かに話して下さると緊張も忘れ和やかな気持ちになります。特に第二内科を回っていた時に病棟の担当患者さんと一週間予診や診察をしながら交流を重ね、最後に患者さんから「一週間ありがとうございます。これからも頑張ってくださいね」と感謝の言葉をいただいた時は「次も頑張ろう!」と非常に気持ち

